

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101174		
法人名	社会福祉法人日新会		
事業所名	グループホームあかし		
所在地	甲府市上町2473		
自己評価作成日	令和 元年 12月 30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和2年2月20

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあかしでは、その人がその人らしくをモットーに自立支援を行っています。スタッフは入居者の出来る事を奪わないように支援しています。食事メニューはスタッフが入居者と一緒を考え、一人一人に合った形態で提供しています。排泄は入居者の排泄パターンを把握し、出来るだけオムツなどは使用せず、マイパンツで過ごして頂いています。身体拘束、虐待などは何年も前から廃止し、それを実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道を入ると畑に囲まれた閑静な場所にある。近隣には、スポーツ公園やショッピングセンター・飲食店があり利便性が高い環境にある。3階建て1階に営繕館・敷地内にグループホーム貳番館があり、2ユニットが別の建物になっている。地域密着型の事業所として、地域との付き合いも活発であり、法人全体での行事には地域の方を招待し認知症の人の理解や支援方法を地域の人に向けて活かしている。運営推進会議では、水害対策について協議し意見をもらうなど働きかけている。また、家族会があり、事業所内の整備をするなど事業所と一体となった取り組みをし、基本理念である「明るく・楽しく・自分らしく地域と共に歩む」を管理者と職員は、共に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 杏香館 )	ユニット名( 武番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 小学校の運動会に参加し、一	[明るく、楽しく、自分らしく地域と共に歩む。を基本理念に掲げ、スタッフ全員で今年度の理念「入居者様の出来る事を理解し寄り添い一日一日を明るく過ごす」に向かって取り組んでいる。	[明るく、楽しく、自分らしく地域と共に歩む。を基本理念に掲げ、スタッフ全員で今年度の理念「今の思いを大切に」に向かって取り組んでいる。	法人の理念もあるが、事業所として毎年各ユニット毎に職員全員で考え決めている。「利用者それぞれの思いを大切に」を朝夕のミーティング時に確認し共有している。日々利用者に関わる際に、理念を具体化していく事を意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回しホームの様子を知らせている	回覧板を回しホームの様子を知らせている	自治会に加入し、利用者と一緒に回覧を届けたり、地域の方が畑にいると声をかけてくれる。地区公民館の文化祭に招待され参加したり、法人の納涼祭には、地域の方を招待しその時は、消防団員も参加し事業所内を見て、気付いた事を指導してくれる等、地域との双方向の関係を築いている。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板に「認知症の対応」を書き認知症の理解を広めている	回覧板に「認知症の対応」を書き認知症の理解を広めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な意見を聞き、仕事に反映させている。	様々な意見を聞き、仕事に反映させている。	2か月に1回定期的に実施し、利用者はユニット毎に交代で2名、家族は、各1名出席している。運営推進会議では、活動報告やノロウイルス対応・防災。特に地域に川があり水害について、避難方法を会議メンバーから意見やアドバイスを受け反映している。議事録は、事業所内で共有し欠席の家族委員には送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアプランについて記入方法を聞いている。	ケアプランについて記入方法を聞いている。	市の担当者に直接ケアプランや書類作成等のアドバイスを受けたり、職員の資格所有の方法等の相談を行っている。また、市から介護相談員の受け入れをし情報を共有している。市の担当者が、運営推進会議のメンバーでは無いため、議事録を届け協同関係を築いていくように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ徹底して拘束ゼロに取り組んでいる。	身体拘束排除宣言を掲げ徹底して拘束ゼロに取り組んでいる。	2か月に1度の職員会議の中で、身体拘束をしないケアについて研修を行い記録は職員間で共有している。法人全体でも年2回実施し、テーマはその都度管理者が考え、気づき等ふりかえりを行い、ケアにどのように生かしていくか取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を行い虐待は行っていない。	高齢者虐待防止についての研修を行い虐待は行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を随時行っている。	研修を随時行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際、説明を行い同意を得ている。	契約を行う際、説明を行い同意を得ている。		

## 自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、面会時に要望を聞くようにしている。	アンケートを実施し、面会時に要望を聞くようにしている。	事業所独自のアンケート受付用紙があり意見・要望・苦情を伝える機会を作っている。納涼祭・クリスマス会・家族会を利用して、管理者や職員は、意見を積極的に聞く努力や場面づくりをし運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日職員ミーティングを行い、意見があればその都度話しあっている。	毎日職員ミーティングを行い、行けんがあればその都度話しあっている。	年1～2回個人面接があり、シフトの要望・勤務時間の変更など意見を聞くようにしている。また、管理者は、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、利用者との日常的な関わりの中で出てくる職員の気づき等を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ボーナスを職能に応じ支給している。	ボーナスを職能に応じ支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を積極的に受けてもらっている。また外部必要な研修への参加を促している。	法人内の研修を積極的に受けてもらっている。また外部必要な研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加して交流を図っている。	グループホーム協会の研修に参加して交流を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し意向を聞いている。	入居前に本人と面談し意向を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談し意向を聞いている。	入居前に家族と面談し意向を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅の場合、ケアマネージャーから情報収集している。	在宅の場合、ケアマネージャーから情報収集している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる能力の把握に努め、教えて頂く機会を作っている。	できる能力の把握に努め、教えて頂く機会を作っている。		

## 自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加してもらったり、面会時には、ホームでの様子を伝え情報を共有しています。家族しか出来ない事はお願している。	行事に参加してもらったり、面会時には、ホームでの様子を伝え情報を共有しています。家族しか出来ない事はお願している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人が会いに来る。	昔からの友人が会いに来る。	毎週日曜日は、家族の協力で教会へ行ったりまた、教会の関係者が2か月に1回位訪問してくれる。利用者が会いたい人には、家族の了解を得て友人が会いに来てくれる。家族と墓参りに行ったり、携帯電話で家族とのつながりを大切にし、継続的な交流が出来るように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様は同じテーブルにしたり職員が間に入り話しやすい環境を作っている。	仲の良い入居者様は同じテーブルにしたり職員が間に入り話しやすい環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行った入居者様に会いに行く機会を作っている。	他施設に行った入居者様に会いに行く機会を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決め本人の代弁者になっている。	担当職員を決め本人の代弁者になっている。	担当職員が、日々の関わりの中で把握に努め、申し送りノートがあり、職員間で情報を共有している。どのように暮らす事が最良なのかを家族・管理者・担当職員を交えて話し合い、意思疎通が困難な方には、表情から把握し理念に添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面会時に家族や本人から生活歴を聞き把握している。	入居時、面会時に家族や本人から生活歴を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に家族や本人から一日の過ごし方を聞きその人なりに生活が出来るように支援している。	入居時に家族や本人から一日の過ごし方を聞きその人なりに生活が出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れ介護計画を作成している。	本人・家族の意見を取り入れ介護計画を作成している。	入居前のサービス利用状況を関係者から得て、家族・関係者・全職員で気づきや意見を話し合い、1か月の暫定プランを作成し3か月で見直しをしている。家族の要望や変化が生じた場合は、モニタリングに基づいた介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や毎日のカンファレンスで気づいた事を話し合いケアに活かしている。また毎月のアセスメントもケアに活かしている	ケア記録や毎日のカンファレンスで気づいた事を話し合いケアに活かしている。また毎月のアセスメントもケアに活かしている		

## 自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、訪問歯科や訪問マッサージを取り入れている。又訪問美容院も取り入れている。	必要に応じ、訪問歯科や訪問マッサージを取り入れている。又訪問美容院も取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物支援を行っている。	買い物支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医が週2回回診にきている。又ターミナルケアもを行っている。	嘱託医が週2回回診にきている。又ターミナルケアもを行っている。	入居時、利用者・家族の同意を得て、全員が週2回嘱託医の訪問診療を受けている。必要に応じて、受診の同行をするが、結果については家族に報告し情報を共有している。希望する診療科目について、歯科・マッサージなど訪問受診で適切な医療を受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば嘱託医に連絡し状況に応じ看護師が対応してくれる。	何かあれば嘱託医に連絡し状況に応じ看護師が対応してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーに情報提供を行っている。	入院時は介護サマリーに情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の対応を家族から聞いている。全ての家族がホームでのターミナルを望んでいる為、重度化・ターミナルの方針を家族に聞き同意書にサインを頂いている。	緊急時の対応を家族から聞いている。全ての家族がホームでのターミナルを望んでいる為、重度化・ターミナルの方針を家族に聞き同意書にサインを頂いている。	入居時に重度化に伴う意思確認書を作成し同意を得ている。重度化した時は、所見・意見書で家族に確認し、医師と相談し看取りの方向性を決めている。看取りについては、法人にマニュアルがあり全職員で共有し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法・AEDの研修を受けている	救急法・AEDの研修を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し避難誘導訓練を行ったり、消火器の使い方を教えてもらっている。消防団には、ホーム内の点検をしてもらっている。	昼夜を想定し避難誘導訓練を行ったり、消火器の使い方を教えてもらっている。消防団には、ホーム内の点検をもらっている。	避難訓練は、事業所独自で年4回・法人全体で1～2回行い、振り返り記録し次回につなげている。納涼祭に地域の消防団が参加して、安全面でのアドバイスや消火器の指導を受けている。台風の際、近隣の事業所から非難して来た経緯もあり、双方向的な協力関係も出来ている。停電プラン・食料・飲料水の備蓄品がある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの研修を随時行いプライバシーに努めている。	プライバシーの研修を随時行いプライバシーに努めている。	利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切に、人前であからさまな介護をせず、トイレ誘導など耳もとで声掛けをする等の工夫をしている。利用者それぞれの人格を尊重し自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	

## 自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が進んで入居者様と会話・傾聴を行い会話の中からほんにんの思いや希望を聞いている。	職員が進んで入居者様と会話・傾聴を行い会話の中からほんにんの思いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見を聞き支援している。	本人の意見を聞き支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を本人に選んでもらったり行事などには化粧をしたりしている。	洋服を本人に選んでもらったり行事などには化粧をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを入居者様に相談したり調理・盛り付け・片づけ等で出来る力を把握し一緒にしている。	食事のメニューを入居者様に相談したり調理・盛り付け・片づけ等で出来る力を把握し一緒にしている。	メニューは、本やテレビを見て職員と一緒に利用者の好みの物を取り入れて決めるようにしている。食材と一緒に買いに行ったり、配膳・テーブル拭きや下膳を職員と一緒にしている。誕生日には、家族と一緒に食事をして楽しむ機会となっている。外出が出来ない時は、事業所で調理しハイキングで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で把握している。	食事チェック表で把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行えるよう支援している。	毎食後口腔ケアを行えるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元にパターンを把握している。又介護度・病気・年齢等により、おむつを使用する時もある。	排泄チェック表を元にパターンを把握している。	一人ひとりのサインを表情・行動やチェック表から全職員が把握して本人の生活のリズムに添った支援をしている。全利用者が布パンツにパット使用。夜間は、パット類で本人に合わせて検討しトイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・牛乳・黄粉・食物繊維が多い食品を提供している。	ヨーグルト・牛乳・黄粉・食物繊維が多い食品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便失禁時や本人が入浴したい時に入浴できるよう支援している。	便失禁時や本人が入浴したい時に入浴できるよう支援している。	基本的には、毎日好きな時間に入浴ができる体制になっている。入浴を拒む人に対しては、時間をずらしたり言葉かけ等の工夫している。また、同性介護希望者の利用者には、心情を察し配慮した一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	

## 自己評価および外部評価結果

## 事業所名

## グループホームあかし

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 壹番館 )	ユニット名( 貳番館 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠時には横になれるよう声かけ・支援を行っている。又昼寝された方には休んで頂いている。	傾眠時には横になれるよう声かけ・支援を行っている。又昼寝された方には休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人が何の薬を服薬しているかまた副作用についても把握している。	入居者様一人一人が何の薬を服薬しているかまた副作用についても把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品を常時準備し散歩等の支援もおこなっている。又、本人の趣味を把握して行って頂ける様支援している。	嗜好品を常時準備し散歩等の支援もおこなっている。又、本人の趣味を把握して行って頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望によって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族も一緒に外出出来るよう支援している。又、外に出て好きな物を食べられるよう地域の協力もあり外食の機会を作っている。	家族も一緒に外出出来るよう支援している。又、外に出て好きな物を食べられるよう地域の協力もあり外食の機会を作っている。	日常は、近道を散歩したり、庭のあずま屋・デッキでゆっくり戸外で気分転換をしている。法人のマイクロバスを利用して利用者全員、希望する家族も一緒に花見に行き積極的に外出を行っている。外食の際は、食事形態や車いすの利用者の様子を事前に伝え、本人に合わせた移動の配慮をしながら安心した外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたいものがあれば、一緒に出掛けている。	買いたいものがあれば、一緒に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡して欲しい時は代わりにかけている。家族からの手紙は本人に渡している。	家族に連絡して欲しい時は代わりにかけている。家族からの手紙は本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計にて不快が無い様に管理している。室内の清潔にも心がけている。又、季節を感じて頂ける様季節の行事を行ったり飾ったりしている。	温度・湿度計にて不快が無い様に管理している。室内の清潔にも心がけている。又、季節を感じて頂ける様季節の行事を行ったり飾ったりしている。	廊下は広くソファには、職員が持ってきたぬいぐるみが置かれている。室内の湿度・温を管理し、心地良く過ごせる様に配慮している。広いデッキに出れば外気に触れて季節感を感じることができる。キッチンからは、調理の匂いがして家庭的である。大きな水槽で金魚を飼育し、家族の訪問時には、一緒に楽しむ空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子以外にソファがあり、好きな所に座って頂いている。	椅子以外にソファがあり、好きな所に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具・家具などを持って来て頂き馴染みの物を全て使用している	自宅で使用していた寝具・家具などを持って来て頂き馴染みの物を全て使用している	居室の入り口には、利用者の名前と担当職員の写真が掲示されている。室内は洗面所・クローゼットが備え付けである。電子ピアノ・和ダンス・仏壇などの品々が持ち込まれて、それぞれの利用者の心地良さを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口やトイレが分かるようにしている。	居室の入口やトイレが分かるようにしている。		